

(1) オリジナル

この用語はいろいろ調べている感じでは当方が最初に提案したものと思われます。また、友人の米国の FCC (Federal Communication Committee) の技官であるハムも他に知らないようです。最近では総務省(旧郵政省)の電波計画課さんも当方の提案を前向きに考えていただいています。総務省も初耳と言っています。

(2) 背景

携帯電話サービス、無線 LAN、ITS (Intelligent Transport Systems) など無線応用にこのところスポットが当たっております。そこで問題になりますのは無線周波数の不足です。10年以上前に世界主官庁会議(WRC)で2GHzを高速な携帯端末のために250MHz帯域幅を開放することを決めて、それが、IMT2000(第3世代移動通信)になったのです。この決定と実行は画期的なもので、2000MHzにあったマイクロ回線はファイバーなどに置き換えられました。技術の方向として、光通信の大容量化にマイクロ回線は負けたことが原因です。そのために、コスト高なマイクロは光に移行し、周波数が空きました。欧州では、ドイツにおいて最近のオークションの結果5兆円もの高値で売買され、事業者の経営がピンチになってしまったほどです。携帯バブルはじけると言われています。日本の狂乱土地値上がりと似ています。

しかし、周波数の不足は解消するどころか、さらに、深刻化すると思われます。携帯以外の応用も多数ありますし、また欧州も時間がたてば元気になるでしょう。無線周波数が不要であるはずはなく、オークションに期待しすぎた結果だと思います。手続き上のミスだと思います。

ここで、頭を冷やして考えると次のような事を思い浮かべます。すなわち、無線の専門家として、無線周波数がこれほどまで必要とされていることは良いことなのですが、このまま行きますと、商用、公衆用、生活用など利益が上がり、はっきりとした目的のある方向ばかりに周波数が振り向けられると思います。携帯は事業者が確保し、無線LANは業界が、ITSは政府が確保、FWA(Fixed Wireless Access)も業界があります。こうしたことに、使われていなかった周波数がどんどん取られて行くことは現時点で喜ばしいのですが、長い目で見てこれで良いのか心配です。

(3) 土地との類似性

周波数という目に見えず、歴史も少ないものをどう扱うのか難しいのですが、類似なものとして、土地を例示したいと思います。土地に苦労している我国民はいやというほど現在の制度の弊害を思い知らされています。特に都市部の住宅の狭隘さ、公園や緑地の貧弱さは欧州や北米から帰国するたびに思い知らされることなのです。最近では韓国から帰国後も感じます。これは戦後の日本が、工場、商用、オフィスなど経済効果のある土地を優先したからです。余裕の無い時代でしたからしょうがないとも言えますが、その結果が80年代のバブル崩壊になっています。周波数も同じにしていいのです。

土地には直接利益を生む工場、農地、商業地などや、住宅地のような生活上の土地、道路などの公共用地、そして直接利用のあいまいな公園や緑地があります。海外旅行をしていてその国の豊かさを見るのは、土地がどう利用されているかで見ると思います。工場、オフィスの近代化、住宅の美しさ、そして公園緑地の美しさです。これらのバランスの良い国が豊かと思えるのでしょうか。公園緑地の美しい国は世界を文化でリードする余裕を感じさせますし、災害にも強さを感じさせます。工場、オフィスに関しては国による差は無くなり、住宅と公園緑地が目立ってきています。

土地と同じように重要さの増す周波数にも同じのことが言えるのではないかと思います。目先の利益でぎっしりと決まった周波数から未来を作る余裕が出てくるのか疑わしい限りです。

(4) Green Frequency としてのアマチュアバンド まさに、歴史的な多くの先達のおかげでアマチュアバンドが1.9MHzからミリ波まで与えられています。この利用は一般市民の技術的興味や利益のためでない研究に利用できる周波数です。公園緑地のような周波数です。ところが、最近になり、この利用が少なくなっています。携帯電話やインターネットの普及が原因とされています。携帯電話やインターネットの代用だったのかと思い知らされていますが、本来のアマチュアバンドの目的はどこにあるのかを考える良い機会でもあります。それは先ほど言いました”一般市民の技術的興味や利益のためでない研究に利用できる周波数”に尽きると思います。携帯やインターネットから奪い戻そうという人々もいますが、無理があります。本来の目的から外れた利用は栄えても短期で